



蛙いっぱいのおんぼを
河北潟に取りもどそう

河北潟の田んぼを元氣するためには！



畦の除草剤 STOP!

河北潟のまわりや加賀地方では、畦に草が生えないよう管理するところが多く、除草剤の使用も少なくありません。除草剤が散布された後の畦は、畦全体の草が枯れ、黄色や茶色に変色します。



ネオニコチノイド系農薬等の空散 STOP!

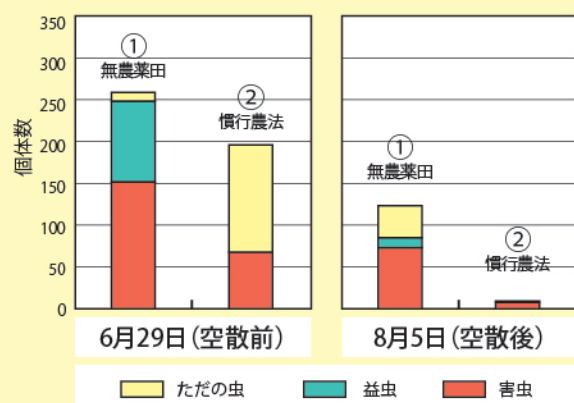
河北潟のまわりでは、カメムシ防除を目的とした無人ヘリによる殺虫剤の空中散布がおこなわれています。精米した米の中にカメムシの食害を受けた斑点米や着色米が1000粒に1粒入ると、2等級米として価格が下がってしまうからです。

除草剤は、カエルの減少や魚などの生物への影響が指摘されるほか、皮膚炎や肺炎などの症例報告など、人体への影響も懸念されています。ネオニコチノイド系農薬は、一般家庭にまで普及した殺虫剤です。昆虫や動物（人間を含む）の神経を攪乱する「神経毒性」、水に溶けるため植物の根から葉先まで吸収される「浸透性」、地中に長期（1年以上）残留する場合もあるなどの「残効性」があります。防除対象のカメムシなどの害虫だけでなく、ハチやトンボやクモなどの益虫を含む昆虫が数多く死にます。生態系や人体への影響が懸念されています。

みえない危険な問題

●上記2つの条件を満たす河北潟周辺農地で栽培したお米を「生きもの元気米」と名付けて販売しています。

無農薬水田①と、殺虫剤の空中散布をした水田②の比較



左の図は、捕虫網をつかって同じ方法で採取した虫の数をグラフにしたものです。

①は無農薬農法2年目の七豊米の水田、②は農薬を使用している慣行農法の水田です。殺虫剤の空中散布の直後に調査した8月5日では、②の水田の虫が激減した様子わかります。そして害虫が生き残っていることがわかりました。

クモ、トンボ、カマキリ
益虫



ただの虫

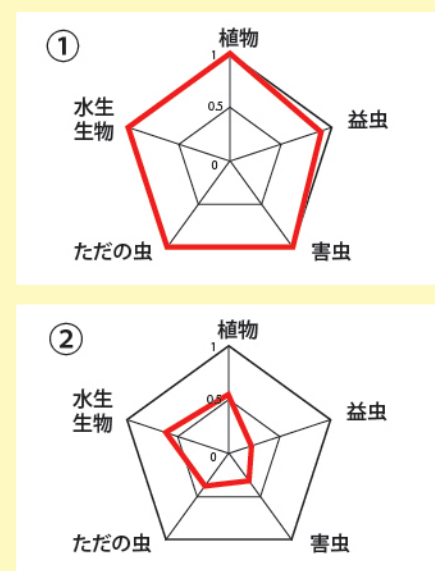
害虫

ユスリカ、トビムシ
ヒエウンカ

イネミスリウムシ
ヒメトビウンカ

生物多様性の比較〈生物の種数の違い〉

調査をおこなった5つの水田のうち2つの結果を掲載しています。



生きもののグループごとに、最も多かった地点を1として、5つの田んぼで確認された種数を相対的に表しています。



① 農薬不使用の七豊米田、採集された虫 (2013年7月)



② 慣行農法の水田、採集された虫 (2013年7月)



田んぼを守ろう

米どころといわれる北陸の水田地帯でも、カエルの鳴かない田んぼがひろがっています。競争力の強化という圃場の大規模化と効率化、大型機械の使用、除草剤や、最近ヨーロッパでの使用が中止されたネオニコチノイド系殺虫剤など農薬の使用は、環境を劣化させ、生物多様性を損なう方向に進むものです。河北潟の豊かな田んぼや水路を守りましょう。

表のカエル：左からトノサマガエル、シュレーゲルアオガエル、ニホンアカガエル、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル〈みんな河北潟の田んぼや水路にいるよ〉



NPO法人河北潟湖沼研究所

一般社団法人アクト・ビヨンド・トラストさんの助成を受けて作成しました。

〒929-0342 石川県河北郡津幡町北中条ナ9-9

Email info@kahokugata.sakura.ne.jp

Tel 076-288-5803

Fax 076-255-6941